今週の相場はどうなる? 今週の相場はどうなる?

作成者:山根亜希子

○2月12日~

先週は日銀の内田副総裁がマイナス金利を解除する場合でも緩和的な金融環境を維持するという 見通しを示したことで日経平均は急騰し、34年ぶりの高値を更新しました。

日経平均が37000円という値段ですが 1989 年の史上最高値まで 2000 円もないということで、今年は歴史的な高値更新があるかもしれません。

為替相場も円安の流れとなり、150 円手前まで上昇してきています。

1990 年頃は日経平均が38000円超、ドル/円も160円くらいのレートまでいったので、当時に 近いレートに近づきつつあるということです。

不動産も地方はダメですが首都圏はバブル期を超えるマンション価格などが話題となっています。 しかし、状況は当時とは大きく異なり、マーケットはバブルですが実体経済でバブルを感じている 人は少ないと思います。

日銀は賃金上昇が進みにくいことからも大幅な金融引き締めには動けないと思います。

中小企業の賃金はほとんど上昇しておらず、賃上げができる状況ではありません。

海外の利上げを見るとすごい勢いで上がっていきますが日本は過去にも何度かゼロ金利解除をしましたが1%程度あたりで再び利下げに動くなど、利上げについてはどんどん上げていくという動きにはなっていません。

このあたりを考えると内田副総裁の発言は、特にサプライズとは思えないのですが先週末が日経平均先物・オプションのSQ(特別清算)日だったこともあり、大きく跳ねたのかもしれません。

2 月は前半株価が強いと後半から 3 月にかけて調整する動きが出やすいので、引き続き、株価動向はしっかり見ていきたいと思います。

米国の株価も史上最高値という状態なので、米国次第かもしれません。

今週は米国では消費者物価指数や卸売物価指数などの発表もあるので、インフレの動きがどうなっていくかも見ていきたいです。

米国の利下げは 5 月以降が有力との情報が多く、今後は各国の利下げの動きがマーケットに影響を与えそうです。

また、米国のイエレン財務長官が再び米国の地方銀行に対して懸念を示しているようで、昨年 3 月のような急落が起こることも想定してリスク管理はしておきたいです。

今週は中国が春節で1週間休場となります。

最近の中国の状況は悪く、あまりいい材料がないので、中国関連のニュースにも注意がいります。

● テクニカルで見た重要ポイントは?



<ドル/円>

先週はあまり大きな動きはありませんでしたが堅調な流れは続いています。

先週安値の147.6円あたりを維持できれば上値を目指す動きが続きそうです。

149 円台より上では短期売買以外、買いは控えた方が安全です。

ニュースなどで急落して 148 円、147 円台まで下がれば買いを検討したいです。

150 円超では上値が重くなってくる可能性があるので、利益確定は欲張らずに早めに考えて、確実に利益を取っていきたいです。

下値は 147.5 円を割り込むと 146円あたりが意識されます。

年明けからの上昇はまだ続いているので、売りは急騰局面以外、様子見がよさそうです。

<気になるクロス円>

クロス円も 1 月後半は軟調なペアも多かったのが今月に入って上昇してきているペアが多く、株価が堅調な間は強気で推移しそうです。

オセアニア通貨も強い動きになってきており、NZドルは昨年高値を抜いてきました。

この流れが週明けも続くかどうかに注目したいです。

ただし、NZ ドルの 92 円は長期的に見ても高値圏なので長期保有はリスクがあります。

2015 年は 94 円あたりを天井に下落に転じました。また、リーマンショック前の高値は97円あたりだったので、長期チャートも確認しながら売買を考えたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル?>

日本では 10-12 月期GDP(速報値)などがあります。

米国では1月月次財政収支、1月消費者物価指数、2月ニューヨーク連銀製造業景気指数、1月小売売上高、前週分新規失業保険申請件数、1月鉱工業生産、2月NAHB住宅市場指数、12月対米証券投資、1月卸売物価指数、1月住宅着工件数、2月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで2月ZEW景況感調査、ユーロ圏で10-12月期GDP(改定値)、12月 鉱工業生産などがあります。

ほかには英国で 12月GDP、10-12 月期GDP(速報値)の発表などがあります。